

2009年11月 号外

民主党プレス民主編集部
〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話03-3595-9988 (代表)
press@dpj.or.jp
http://www.dpj.or.jp

民主党参議院比例区第37総支部代表

大島 九州男 特集号

〒822-0022 福岡県直方市知古 764-1

☎0949-22-0576 / FAX0949-24-3110

http://KUSUO-O.NET

臨時国会・開会

鳩山総理はじめ閣僚ら「政治主導」で答弁



参議院予算委員会風景

11月2、4、5日の3日間、衆院予算委員会が開かれ、海江田万里、平岡秀夫、山口壮各議員が質問に立ちました。6日からは参議院に舞台を移して予算委員会が行われ、平野達男議員から質問がスタート。

「税金のムダ遣い」排除をはじめとする民主党のマニフェストや外交問題など、国民の立場から鳩山由紀夫総理大臣（代表）

をはじめ、関係閣僚の見解を質しました。

一方、各閣僚は官僚のサポートを受けずに答弁。民主党が掲げる「政治主導の国会運営」を早速実践するかたちとなりました。

鳩山由紀夫総理は2日夕、首相官邸で記者団に対し、総理として初めて臨んだ衆院予算委員会の感想について、「最初はかなり緊張した」としつつも、「国民の皆さんに政治家同士の論争をしっかりと見て頂けたとしたら、国会が少しずつ変わってきたと理解をされると思う」と振り返り、今後さらに活発な論争ができると展望を語りました。

『命を守る』

～水俣病被害者救済へ向け大臣に要請～



環境大臣室にて申し入れ

10月22日大島九州男議員は、小沢鋭仁環境大臣、田島一成副大臣、大谷信盛政務官に水俣病被害者救済の申し入れを行いました。その項目は、①水俣病問題の重要性、②被害者救済措置の早期策定、③現地視察の必要性などです。大島議員は「何よりも最優先してほしいことは、被害者の皆

さんの立場に立つこと」と訴えました。それに対し小沢環境大臣は、大きくうなずき、「そのための知恵をお借りたい」と協力を要請。さらに、田島副大臣は、早速、10月末に現地へ赴くと約束しました。

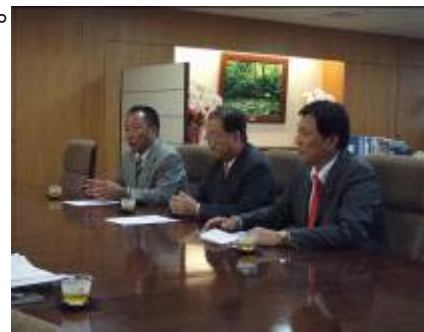
水俣病は、チッソ水俣工場が海に流した廃液によって引き起こされた史上初の公害病です。1942年頃から水俣湾の魚介類を食べた住民や動物に、しびれなどの神経系の症状が表れ、後にメチル水銀が原因だと判明しました。重篤化した場合は死に至る、非常に恐ろしい病気です。

1973年、患者と原因企業間で締結された補償協定により、水俣病として認定された患者3,000人に対し、一時金、年金、医療費が支給されました。国の認定基準にしたがい認定にあたったのは、国からの委託を受けた熊本県と鹿児島県です。しかし、この後も認定をめぐる訴訟が相次ぎ、1995年、政府は、未認定被害者を救済する最終救済策を成立させ政治的解決

を図りました。この時、被害者に対し一時金260万円や医療費などが支給され、対象者は12,700人に上りました。

ところが、2004年、最終救済策を受け入れず訴訟を継続していた団体に対し、最高裁は国及び熊本県の責任を認め、原因企業であるチッソに対し賠償支払い命令を下しました。この命令に対しチッソは、受け入れを拒否。いよいよ暗礁に乗り上げるかに思われた本年7月、チッソの分社化を認める「水俣病被害者救済特別措置法(救済法)」が成立しました。現在、救済法の焦点である一時金の額や救済の枠外におかれた「潜在患者」にどう対処するのかなどの課題が山積しています。

10月31日、大島議員は、田島環境副大臣とともに、熊本県の水俣湾親水護岸にある水俣病慰霊碑に手を合わせその後被害者の皆さんとの懇談に同席しました。この席で田島環境副大臣は、「和解に向けた事前協議に応じる」姿勢を示し、傍聴席に詰めかけていた原告や



弁護団から拍手がわきました。水俣病不知火患者会の大石会長は、「政権交代で国が前向きな姿勢に変化したことを評価したい」と述べています。

大島議員が最も大切にするのは、人の命と健康を守ることです。水俣病被害者救済へ向けて、今後さらに全力で取り組む決意です。

予算委員会理事に就任しました！

10月26日召集された第173回臨時国会より、文教科学委員、予算委員会理事、国際・地球温暖化問題に関する調査委員に就任しました。

文教科学委員会では、「高校無償化法案」の法案提出者として、本法案の成立に向けて全力で取り組んで参ります。

予算委員会の理事に任命され、委員会で使用する資料について責任を負うなど、委員会の潤滑な運営に努める重責を担うことになりました。しっかりと努めさせていただきながら、様々な経験を積んで参りたいと考えております。



地域の皆さまと…

臨時国会開会までの間、地域の皆さまと触れ合う機会を多く持つことができました。

国政の現状をお伝えするミニ国政報告会・街頭演説の合間に、お祭りにスポーツにと汗を流しました。



写真は、5年に1回ある、故郷の剣神社の大祭。大人も子供も一体となつての地域のお祭り。

久々に曳く山笠は、童心に返らせてくれました。伝統を守り、九州男の心意気を次世代へ引き継ぎ、お祭りを守っていただいている地域の皆さんに感謝です。